目次

南洋の獨逸領　教授　西村万壽
學級教授の能率　一、三　伊藤ふき
教育の根本問題　中村春二
批評（第十號）　S. S
冬の朝日　尾上八郎
葛飾の歌　一、四　安永みち
春の日　一、二　廣田貞子
港・旅行・母・務・初冬・夕ぐれ　一、二　A. B. C
■雜報□第三十一回學術談話會記事□會計報告□會員動靜□幼稚園日記（榮の花）□教生の窓より（いづみ）□圖書室の一隅より□中等教育に於ける作文科□獨逸の新大學□中等教育に於ける時間經濟□良妻は銅像の基を築く
■第一回學術談話會總會□編輯の後に
■研究□大正三年に於ける文科に關する學術進歩の大勢（第一・第二）

南洋の獨逸領

西村万壽

緒言

太平洋中に星羅せる幾多の小群島は大別して三とす（一）メラネシア Melanesia は黑人島の義、ニューギニア島より東方フキジイ群島に至る諸島（二）ミクロネシア Micronesia は小群島の義にして、前者の北に碁布しフキリッピン群島の東にあるパラウ群島、カロリン群島、マリアナ群島、マーシャル群島の諸島（三）ポリネジアは多數島の義にして、前兩者の東に散在し北はハワイ群島より南はラバ島に至る諸島にして、氣候熱帶に屬し濕度高く天與の產に富む安樂國たりしが、十九世紀の末葉より歐米列强の國旗飜りて爰に其惰眠より喚起せり。

右諸島の歐人に知られしは一五一二年マリアナ群島發見に濫觴を發し、英國のオーストラリア大陸に其基礎を定めてより以來蘭、獨、英、佛の諸强大小の群島を獲得せり、蓋し十九世紀の中葉以後にして歐洲諸國の海外發展の最後の幕に屬す、然して獨逸の發展は他列國より後れかの普佛戰爭後は專心國力の充實と國內統一に意を注ぎ他を顧みざりしが現皇帝位に即きてより從來の政策を更め、大に海外殖民地の獲得に腐心し征服に購買に次第に其領土を擴め、亞弗利加及太平洋にある殖民地の總面積實に本國の五倍に垂んとす。